

鉄道博物館特集

私は、今まで地理学的な地域分析を鉄道から行なってきた。しかし、鉄道そのものに関する考察はあまりしなかった。そこで、鉄道博物館に行って、鉄道に関する知識を楽しみながら学んだ。

【1】概要

以前に「鉄道からの地域分析」の【1】の概要で述べたように、鉄道は再び注目され始めている。鉄道は人々の生活の一部となっていて、欠かせないものであることから、**地理学的な地域分析を鉄道から行なえる**のではないかと思って、私はよく鉄道と人間の生活・活動の関連性について考察している。しかし、一方鉄道そのものについては、あまり深く考察してこなかった。そこで鉄道そのものも、もう少しみてみる必要があるので、鉄道に関する資料・遺産が集積している鉄道博物館で学習することにした。

鉄道博物館は埼玉県さいたま市大宮区にある。実際の経路についてであるが、行きは自分が住んでいる三島から東海道線の211系の直通東京行きに乗って、小田原まで行った。そして、そこから湘南新宿ライン、東海道線から高崎線直通の籠原行きの電車に乗り、大宮まで行った。そこから、ニューシャトルで鉄道博物館（旧大成駅）に行った。帰りは、大宮から上野まで行き、そこから山手線に乗換え、東京に着いた。東京から東海道線で熱海まで行き、そこから313系の静岡行きの電車に乗換え、三島まで帰った。鉄道博物館は東日本旅客鉄道（JR 東日本）の創立20周年記念事業のメインプロジェクトとして2006年5月14日に閉館した交通博物館に替わる施設として、2007年10月14日の鉄道の日に関館した。ここでは、過去に使用された鉄道車両が実物展示をされていて、時代やテーマごとに紹介されている。また、鉄道の原理・仕組みもしくは最新の鉄道技術について、模型やシミュレーションを活用しながら、体験的に学習することができる。特に交通博物館時代と比べて、体験できる展示装置が充実していることが特徴である。実際に私は、いろいろな鉄道車両をみたり、実物の展示装置に触れたりして、鉄道に関して様々な体験をした。GW中であるため、ちょっとしたイベントが開催されていた。あと、家族連れのお客が多く、子供たちが走り回っていた。

【2】鉄道博物館の施設・展示について

全部はみることができなかつたが、ここで鉄道博物館の施設・展示について、私が実際にみたものと鉄道博物館のホームページ (<http://www.railway-museum.jp/top.html>) を照らし合わせ、紹介していく。

3階のラーニングゾーンは、鉄道車両の動力やブレーキの仕組みを、実物の展示装置を利用して、体験学習をすることができる。この内容は大人向けで、実際に装置を動かしたが、よく分からないものもあった。もう少し、分かりやすい説明文にしてほしかった。このゾーンにおいて、一番興味を持ったものは実物のパンダグラフを上下に動かす装置で、これにより架線とパンダグラフが接触する様子を見ることができた。これを通じて、架線から集電する仕組みを理解することができ、鉄道車両を動かす力について学べた。

ノースウィングは敷地内の一番北側に位置する別棟で、ノースエントランスやインフォメーションのほか、キッズスペース 2・鉄博ホール・ノースギャラリーで構成されている。ノースギャラリーは、常設展示はなく、テーマを決めた小規模な展示を行うギャラリーで、修学旅行列車「なかよし」などに使用されたクハ167形式の先頭部分を展示している。鉄博ホールは鉄道博物館が収蔵する映像・ビデオなどを上映するところである。特別な企画や催し物などがあつた場合にも使用されることがある。また、ノースウィングとエントラスゾーンを結ぶE2系「はやて」をモデルにしたミニシャトルがあり、それに乗るためにたくさんの家族連れのお客が並んでいて、30～45分程度待ちであつた。

ヒストリーゾーンは、過去に使用された鉄道車両が実物展示をされており、時代やテーマごとに紹介されている。そして、このゾーンは鉄道博物館のメイン展示のうちの1つであり、全体の約半分のスペースを占めている。特に「情景再現」という展示演出が行なわれていることが特徴である。また、車両の中に入れるので、実際の座席・つり革など、座ったり触れたりすることができる。181系などには昔の国鉄路線図があったり、車内の張り紙等も再現されていたりして、当時の様子をより現実的に再現されている。それから101系においては、動力装置があり、実際の運転台のマスコンを操作することで、簡単な動力のシミュレーションができ、モーターの音を聞くことができた。あと、ヒストリーゾーンの中央にある運転台の回転のイベントがあり、約10分間の蒸気機関車に関する解説が付いている。またこのとき数回程度、蒸気機関車の汽笛を聞くことができた。

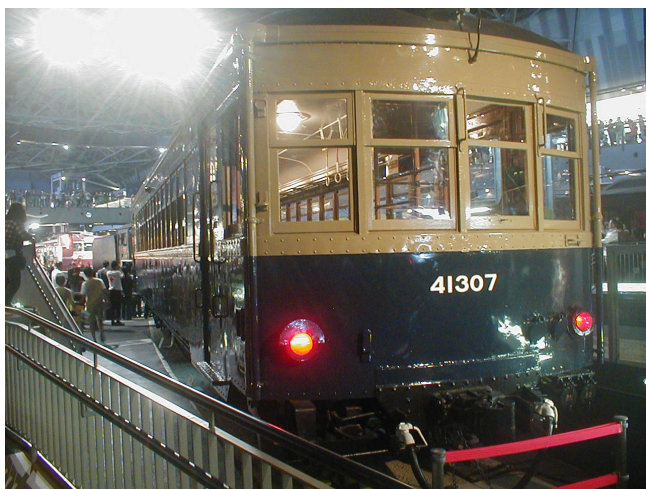


写真1 41000形気動車（国鉄初の本格的な気動車）



写真2 昔の国鉄路線図（181系の車内）

1Fラボラトリーの展示コーナーは、台車の分解・組立が体験できる「車両工場ラボ」、駅係員の仕事が体験できる「駅構内ラボ」、パソコンを使って楽しくデザインできる「デザインラボ」がある。しかし、今回はできる人数が限られていて、これらを体験することはできなかった。また、ミニ運転列車運転指令室があり、本物の鉄道と同様に、パークゾーン内を走るミニ運転列車の運行状況がひと目で分かる。運行状況は画面で見ることができ、見たい区間・駅を選択することができる。どうやら、実際の列車の運行状況は、用途に応じて区間・駅を選択して活用しているようだ。

運転シミュレータは、実際の鉄道の運転を精密に再現している。シミュレータは、205系山手線・209系京浜東北線・211系高崎線・200系新幹線がある。また、D51シミュレータがあり、蒸気圧の調整など、蒸気機関車の操作手順を本格的に体験することができる。私は209系京浜東北線をやってみた。区間はさいたま新都心から与野までである。シミュレータはたくさんの子供たちが見ているため、プレッシャーとの戦いで、手前で停止したり、行き過ぎたりするなど、恥をかかないようにがんばらなければならなかった。私がやった結果は1mぐらいずれていたが、なんとか合格範囲で、恥はかかずに済んだ。

また、ミニ列車にて実際の電車の運転を体験することができる。205系埼京線・武蔵野線、209系京浜東北線、E231系高崎線、251系スーパービュー踊り子2両、253系成田エクスプレス2両、E257系あずさ2両の計10両がある。運転司令室も隣接して設置しており、モニターを見ながら運行システムを分かりやすく理解することができる。しかし、今回はGWであるため、私が鉄道博物館に到着した段階で、もう既に予約がいっぱいになっていて、ミニ列車の運転はできなかった。休日にミニ列車を運転したい人は、開園時間である10時に合わせて行く必要がある。

2階のスペシャルギャラリー1で、第2回コレクション展『時刻表』が4月22日から8月31日まで開催されている。時刻表類を約130点展示されており、主に時刻表の歴史が紹介されている。スペシャルギャラリーの部屋に入ると、最初にJR時刻表の表紙・JTB時刻表の表紙写真が掲示されている。それから、大正・昭和期の

古い時刻表を見ることができる。それを見て、懐かしいと思う人がいるかもしれない。あと、列車ダイヤの編成から始まり、時刻表という冊子にでき上がるまでの過程を、写真パネルを用いて紹介されている。

模型鉄道ジオラマは、横幅約 25m 奥行き約 8m の約 200 m² の広さがあり、HO ゲージにおいては日本最大規模である。そして、日本の鉄道の特徴的シーンを再現している。車両基地や地下区間等も再現されている。また、ループ線やスイッチバックなどの現在見る機会が少なくなった施設も設置されている。それから、信号機といった細部まで表現されていて、かなりこだわりをもった作品であるといえる。そして、15 分程度のスタッフが解説しながら運転を行う観覧プログラムを用意されている。プログラムを実施していない時間は自由に観覧することができる。そのとき、スタッフの人が動かしてほしい車両のリクエストを聞くことがあるので、自分の好きな車両をリクエストすれば、その車両を動かしてもらえることもある。

2 階のラーニングゾーンは、鉄道の原理や、安全・安定輸送のシステムを、実物の展示装置を利用して、体験学習をすることができる。この内容は 3 階のラーニングゾーンと比べれば、基本的なものが多く、子供たちも楽しく学ぶことができる。展示装置そのものを動かすだけでも楽しい。ただ、子供たちは展示装置を動かすのに夢中で、肝心なことを学んでいないかもしれないが… まあ、私にとっては、鉄道の仕組みについて楽しく理解することができたので満足はしている。

その他、ミュージアムショップ・レストラン等の施設、鉄道博物館の隣を走る電車が良く見えるデッキ (3 階・4 階) などがある。休日はレストランが混み、約 30 分程度並ぶこともあるので、待つのが嫌な人は弁当を持参するか、一時退場して、近くの店に食べに行った方が良いかもしれない。

【3】感想・留意事項

ここまでは、鉄道博物館の各施設・展示について、それぞれ紹介してきた。最後に鉄道博物館に行って思ったことや、これから行く人への留意事項についてまとめてみた。

鉄道博物館はまさに**鉄道のテーマパーク**と言える。鉄道車両の実物展示のほかに、E2 系「はやて」をモデルにしたミニシャトルやミニ列車運転などのちょっとしたアトラクション的なもの、および鉄道車両を利用した休憩所など、あらゆるところで鉄道が登場し、活用されている。それから、**子供から大人まで楽しむことができる**。子供たちは電車が好きな人が多いことから見るだけで楽しいだろう。模型やシミュレーションの体験できる展示装置が充実していることから、子供たちは展示装置を動かして、夢中になるだろう。一方、大人向けの内容のところもあって、**鉄道車両の動力やブレーキの仕組みなどの鉄道技術に関する専門的な知識を学べる**ことや、昔の時刻表のコレクションなどがある。また、**過去に使用された鉄道車両の実物展示や模型鉄道ジオラマは、細部まで再現されている**ことから、鉄道ファンも楽しむことができる。

鉄道博物館の見学所要時間は 120 分程度とされているが、休日は込み合うこともあり、待ち時間が発生する可能性があることから、その時間では回りきれない。**逆に、一日いても飽きない内容でもあるので、1 日かけてじっくり楽しむことをお勧めする**。あと、ラボラトリーの展示コーナーや模型鉄道ジオラマのプログラムの回数が少ないと感じた。そのため、プログラムに参加したい場合は、その時間に合わせて行動する必要がある。休日は、もう少しプログラムの回数を増やしてほしいところである。

みなさまも私のレポート・記事を読んでいただき、鉄道博物館に行ってみませんか。鉄道博物館は資料・データ・展示物が豊富ではあるため、鉄道に関して学ぶことができる。特に模型やシミュレーションの体験できる展示装置は、実際に行って、展示装置を動かしてみることによって、鉄道について理解が深まる。そしてこれをきっかけに、鉄道について興味をもち、考えてくれる人が多くなってくれば、幸いである。

参考資料・参考ホームページ

- ・鉄道博物館のホームページ (<http://www.railway-museum.jp/top.html>)
- ・筆者作成の鉄道からの地域分析